

第2学年1組 音楽科学習指導案

指導者 飯島 賢二
場 所 第一音楽室

- 1 題材名 我が国の伝統音楽のよさや美しさを味わって表現しよう
教材名 長唄「勸進帳」(三世並木語弊 作 四世杵屋六三郎 作曲)
能 「安宅」 (作者不詳)

2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

A表現 (1) イ 曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと。

B鑑賞 (1) ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。
イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。

[共通事項] 音色 リズム 旋律

(1) 題材観

本題材は、我が国の伝統的な歌唱の特徴を表現するために、曲種に応じた発声や言葉の特性を理解し、それらを生かして歌う能力を高めることをねらいとしている。

生徒は日常、多くの音楽に触れているが、西洋の音階や外国のリズムを使ったJポップ、ロック、ダンスミュージックなどが多く、我が国の伝統的な音楽や和楽器にふれる機会が少ない傾向にある。しかし、国際化が進展する今日、我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を深め、諸外国および我が国の音楽文化を重視する態度の育成が重視されている。

そこで本題材では、歌舞伎や能の鑑賞と関連付け、我が国の伝統的な歌唱の特徴を理解し、それらを大切にしたい表現をすることを狙いとして設定した。

(2) 生徒の実態(男子18名、女子15名、計33名)

1学年では我が国の伝統的な音楽、箏曲「六段の調べ」において、鑑賞と表現を関連付けた学習をした。生徒は箏の音色や奏法に関心を示し、鑑賞や表現に意欲的に取り組んでいた。一方、歌唱では進んで合唱に取り組み、声部の役割を感じ取って歌うなどの活動をしてきたが、我が国の伝統的な音楽についての歌唱表現活動には取り組んでいない。そのため、我が国の伝統的な歌唱のもつ魅力を味わわせたいと考える。

(3) 指導観

これまで、「能」や「歌舞伎」は鑑賞教材として扱ってきたが、本題材では、表現と鑑賞の両方の教材として関連付けて扱うことによって、我が国の伝統的な音楽の特徴をより深く理解できると考えた。鑑賞による理解だけにとどまらず、実際に声を出して表現することにより、生徒はより身近に我が国の伝統的な音楽を感じ取るであろう。

ここでは、「勸進帳」を教材として取り上げる。「勸進帳」は歴史的な逸話がもととなる歌舞伎であり、生徒が感じ取り、我が国の伝統的な歌唱に主体的に取り組ませるようにしたい。長唄は声の個性を重んじる音楽である。生徒がそれぞれ自分の声を活かして、恥ずかしがらずにのびのびと歌えるような手立てを工夫したい。

さらに、能「安宅」が同一の話であることから、表現活動をした後に鑑賞させ、能と歌舞伎の関連や歴史的背景、ひいては音楽文化の理解についても深められるようにしたい。

3 題材の目標

我が国の伝統音楽の特徴に関心を持ち、音色、リズム、節回しを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、主体的に長唄を歌唱したり鑑賞したりする。

4 題材の評価規準

ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽表現の創意工夫	ウ音楽表現の技能	エ鑑賞の能力
<p>①長唄にふさわしい声や言葉の特性に関心を持ち、それらを唄う学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>①長唄の音色、節回し、強弱旋律を知覚して、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、長唄にふさわしい声や言葉の特性を理解して、それらを生かした音楽表現を工夫し、どのように唄うかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>①長唄の初歩的な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけて唄っている。</p>	<p>①長唄や謡の音色、節回し、強弱、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解するとともに、長唄や謡の特徴を物語や演出などと関連付けて理解し、根拠をもって批評し、歌舞伎や能の音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p>

5 研究の視点について

【視点1】表現と鑑賞を関連させた題材構成

○我が国の伝統的な音楽である鑑賞教材を表現教材に生かす

伝統芸能(総合芸術)ともいえる歌舞伎や能の歴史的背景を理解させるとともに、それらと「日本の伝統的な歌唱法の発声、言葉の節回しの特徴など」とのかかわりを表現に生かす。

【視点2】思いや意図をもって表現したり、音楽のよさや美しさを味わって聴いたりする力の育成

○図形楽譜の活用

本来、長唄は縦書きの譜面を使うが、音の高低や旋律の動きなどをとらえやすいように、線で示した横書きの図形楽譜を用いる。図形楽譜は全体で活用する拡大楽譜と、個人のワークシートと2種類用意する。範唄を聴かせて、それを模倣しながら唄うところから始めるが、「唄い方のポイント」を示しながら指導していきたい。その「唄い方のポイント」をそれぞれの図形楽譜に書き込んで可視化し、思考の流れや学習の軌跡が表れるようにしたい。

6 題材の指導計画(4時間計画)

次時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準〈評価方法〉
ねらい	歌舞伎「勸進帳」を鑑賞し、長唄の特徴に関心をもって唄う。	
第1次	<p>第1時</p> <p>○歌舞伎「勸進帳」を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 映像資料の鑑賞を通して、歌舞伎について音や音楽、美術的演劇的な舞台の特徴などについて整理し、ワークシートにまとめる。 長唄の雰囲気と音楽的な特徴について、音色、節回し強弱について着目して聴き、ワークシートに書く。 <p>○長唄の発声、言葉と節回しとのかかわりなどの特徴を感じ取り、聴いたり唄ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 節回しや言葉のつながり方など、気がついたことをワークシートに記入しながら、「これやこの～」の部分の聴いたり唄ったりする。 	<p>長唄にふさわしい声や言葉の特性に関心を持ち、それらを唄う学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>(関心・意欲・態度①)</p>
ねらい	長唄にふさわしい声や言葉の特性を生かした音楽表現を工夫して唄う。	
第2次	<p>第2時</p> <p>○長唄にふさわしい声の出し方、言葉の発音や抑揚、身体の使い方などをとらえて唄う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「これやこの～」の部分について、唄い方の映像資料(DVD)を視聴し、長唄にふさわしい声の出し方、言葉の発音や抑揚、身体の使用方をいろいろ試しながら工夫して唄う。 長唄の音色、節回し、強弱、旋律などの特徴についてワークシートにまとめて、唄うようにする。 <p>第4時</p> <p>○前時の学習で工夫したことを生かし、長唄を唄う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを確認しながら、長唄の特徴を生かして唄う。 お互いに聴き合って、工夫を認め合い、長唄の表現技能を高める。 	<p>長唄の音色、節回し、強弱旋律を知覚して、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、長唄にふさわしい声や言葉の特性を理解して、それらを生かした音楽表現を工夫し、どのように唄うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>(音楽表現の創意工夫①)</p> <p>長唄の初歩的な発声、言葉の発音、身体の使用などの技能を身に付けて唄っている。(音楽表現の技能①)</p>
ねらい	音楽の特徴を物語や演出などに関連づけて理解し、歌舞伎や能の音楽の良さや美しさを味わって聴く。	自分の考えを伝え合いながら
第2次	<p>第3時</p> <p>○歌舞伎と能の歴史的背景を知り、「勸進帳」と「安宅」を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「勸進帳」と「安宅」が同じ物語であることから、能と歌舞伎の関連や歴史的背景を学び、長唄や謡の違いなどを感じ取る。 歌舞伎の長唄と能の謡のそれぞれのがもつ声や言葉の特性(言葉の抑揚、アクセント、子度はのもつ音質、語感など)に着目して、鑑賞する。 <p>歴史背景を学び、能と歌舞伎の謡を学ぶ。</p>	<p>長唄や謡の音色、節回し、強弱、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解するとともに、長唄や謡の特徴を物語や演出などに関連づけて理解し、根拠をもって批評し、歌舞伎や能の音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p> <p>(鑑賞の能力①)</p>

7 本時の学習 (2 / 3)

(1) 本時の目標

- ・長唄にふさわしい声や言葉の特性を生かした音楽表現を工夫して謡うことができる。

(2) 展開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準<評価方法>
<p>1. 前時の学習内容の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎、長唄「これやこの～」の部分を鑑賞し、唄う。 <p>2. 本時の目標を知る。</p>	<p>○教師のかかわり ◆評価規準<評価方法></p> <p>○掲示物、ワークシートなどを活用する。</p>
<p>長唄にふさわしい声や言葉の特性を生かした音楽表現を工夫して唄おう。</p>	
<p>3. 長唄「勸進帳」の「これやこの～山かくす」の部分を4グループに分かれて練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の気づいたことを確認し、声の出し方や発音の仕方、旋律の速さや抑揚、身体の使い方などを試しながら、工夫して唄う、 ・長唄の歌詞を確認し、ワークシートやCDを活用しながら唄う。 ・友達と聴き合い、工夫したことが効果的に表現されているか、アドバイスし合う。 <p>4. 工夫したことを生かして、グループの発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの工夫した点を図形楽譜で示すなどして述べてから、発表する。 ・お互いの工夫のよさや課題について伝え合い、相互評価をする。 <p>5. 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表した成果と課題を確認し、全員で長唄「勸進帳」の「これやこの～山かくす」を唄う。 	<p>○気がついたことをワークシートに記入させる。</p> <p>○ワークシートを活用して、唄うときの手ごかりとするように助言する。</p> <p>○拡大図形楽譜に、旋律の抑揚などを記入して、視覚的にも確認できるようにする。</p> <p>○生徒の実態に合わせて、「唄い方のポイント」を適宜示しながら、助言する。</p> <p>○個人やグループのよさを認め、自信をもって唄えるように称揚する。</p> <p>○自信をもって声が出せるような雰囲気づくりをする。</p> <p>○伝え合ったよさや課題について、図形楽譜などにまとめ、共有できるようにする。</p> <p>○図形楽譜などを活用して、工夫した点などを確認する。</p> <p>◆長唄の音色、節回し、強弱、旋律を知覚して、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、長唄にふさわしい声や言葉の特性を理解して、それらを生かした音楽表現を工夫して、どのように唄うかについて思いや意図をもっている。 (音楽の創意工夫①)</p> <p><態度観察・演奏聴取・ワークシート・発言></p>

